

15 子どものころから障害がある場合は？

20歳前障害の場合は所得制限あり

初診日に加入していた年金制度によって受給できる障害年金の額は変わりますが、初診日が20歳よりも前で、どの制度にも加入していない場合はどうなるでしょう。たとえば、生まれつきの病気や障害、20歳より前にかかった病気や事故で負った怪我などがもとで障害が残った場合です。障害のために働くことができず、成人しても保険料を納めていないというケースもあります。20歳になるまでは特別児童扶養手当、障害児福祉手当などがありますが、20歳を過ぎたらどうなるのか……と心配される方もいるでしょう。

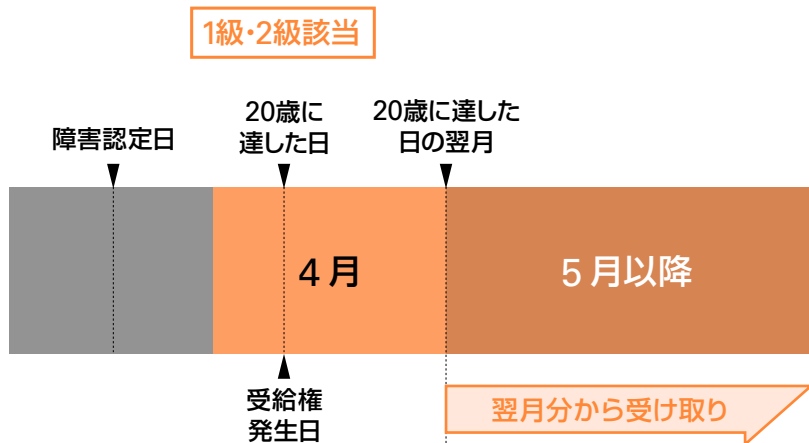
この場合は、「**20歳前障害基礎年金**」として請求することができます。

20歳前障害の障害認定日は、「**初診日から1年6か**

月経過した日」または「**20歳になった日**」の遅いほうです。たとえば、5歳のときに初診日がある場合、障害認定日は20歳の誕生日です。19歳5か月に初診日がある場合は、障害認定日は20歳と11か月の日となり、障害の程度が障害等級に当てはまれば請求可能。医師に**障害認定日前後3か月以内の診断書**を作成してもらいます。子どものころのカルテがあるうちに受診状況等証明書をもらっておくと、20歳前障害の初診日証明がスムーズです。

また、20歳前障害では**保険料納付要件は不要**ですが、**所得制限**が設けられています。所得額が、2人世帯で398万4000円を超える場合は年金額の2分の1相当額に限って支給停止、500万1000円を超える場合は全額支給停止とする2段階制になっています。なお、世帯人数が増加した場合は、扶養家族1人につき所得制限額に加算がきます。

20歳前の傷病による障害基礎年金（誕生日が4月の場合）



20歳前障害基礎年金の所得制限

